

令和元年度 第2回 松田町総合戦略審議会 議事録

1. 日 時 令和2年2月5日（水）14:00～15:40
2. 場 所 役場 3階 防災対策室
3. 出席者 別紙「名簿」のとおり
4. 配付資料

松田町総合戦略審議会委員名簿

資料1 第2期 松田町総合戦略（案）の概要

資料2 第2期 松田町総合戦略（素案）に対するパブリックコメント実施結果

資料3 第2期 松田町総合戦略（案）

【参考資料】

参考資料1 第1期及び第2期 松田町総合戦略基本目標等に係る比較表

参考資料2 松田町人口ビジョン（改訂案）

参考資料3 令和元年度 第1回 松田町総合戦略審議会議事録

参考資料4 松田町総合戦略審議会設置要綱

1. 開 会（事務局：輿石）
2. あいさつ（古舘会長・田代副町長）
3. 議 事

（1）第2期 松田町総合戦略（案）について

資料1及び**資料3**に沿って事務局より説明

（議事（1）の説明に合わせ、議事（2）についても**資料2**に沿って事務局より説明）

会 長： ただ今事務局より総合戦略（案）とパブリックコメントの実施結果ということで、議事の（1）と（2）について併せて説明がありましたが、ご質問、ご意見等ありましたらお願いします。

委 員： ちょっと確認ですが、先日、新聞で転出超過に関するランキングが確か神奈川県で出ていたと思うんですが、下から2番目でしたよね。そうすると、現状としては、改善傾向にあるのかどうかというのが、ここでは、ちょっと分からない。（改善傾向に）あるという風にも思えるし、そうとも思えない。こうやってランキングが出てくると、元の人口からすると相当の人数が出てしまっているように見えるんですが、それがどう改善しているのかということと、もちろん人口減少を抑えていくというところでは、まあ、常に言われるんですが、若い女性の人口がどういう状況にあるのかということが重要かと思うんですが、その辺りは目標どおりにいっているのかということをご教示いただきたい。

定 住： 基本的な状況とすると、目標といいますか、社人研の当初の人口シミュレーションに対しては、そこまでの人口減にはなっておらず、微減の状態です。数字的な話は今できませんが、数字の捉え方の部分については、町内に民間会社の研修施設があり、その利用者については、外国人の

方が多く利用されており、その部分が20～30人という転出転入が繰り返されているという話の中で、そういった数字になったのかなと考えております。

事務局： 補足ですが、前回の会議でお示した人口推移に関する資料ですが、今回の会議では用意できていないところですが、私が把握する限り、社会減については、だいぶ緩やかというか、それを超えて、逆にプラスになっているような状況も見受けられるところなので、その辺りについては、まだ予断を許さない状況ではあるものの、以前よりはだいぶ改善されてきているのかなという感じを受けております。ただ、高齢者の人口については、今ピークを迎えつつあり、シミュレーションでいけば、確か今年、一番のピークを迎えるであろうと、そこから徐々に亡くなる方が増えていくということで、高齢者の方が減っていくという見込みが立っています。

また、若年女性につきましては、地方創生推進交付金を活用し、女性活躍に観点をあてた事業を展開しているところですので、この辺りで今後、今よりもさらに改善していけるよう取り組んでいければいいのかなと考えております。

会長： ちょっと私、この記事を存じ上げないんですが、この新聞はいつの話なんでしょうか。

委員： 日までは覚えていませんが最近の記事です。1週間以内の、神奈川県内の転出と転入の上位5位、下位5位が出ている。

会長： ありがとうございます。ただ今、事務局から説明、コメントがありましたが、何か補足することなどありましたらお願いします。

外国人の転出があつて、その影響ではないかということ。また、前回の審議会では説明があつたとおり、社会減は減っているのので、改善の兆しが出ているのかなと思いますし、それから、人口ビジョンでもこういう形でやろうとしているんだという目標が記載してありますし、その前のページにはその施策として、出生率、それから、転入を増やし転出を少なくする。また、宅地を供給して人数を増やしていこうと、放っておくと2040年に7055人になってしまうのを、目標としては1万人にもっていこうと。現時点では、下がっていく想定（社人研シミュレーション）よりは上がっていると理解していますが。でっこみ、引っ込みがあつて、たまたまそのような数字が出ているのかもしれませんが。

事務局： 補足ですが、総合戦略の39ページに記載させていただいてますが、一つのポイントである特殊出生率についても気にしているところでございます。基準値として、平成29年度の数値である1.20があります。目標値としては1.32ですが、こちらは平成28年度については、1.46という数値になっていました。ここは突出して良かった数値となりますが、ここを目指していけるといいのかなという風に、今は年によるでっこみ引っ込みがあるため、延べ均して、この辺りを目指していけるよう、そういった意識を持ちながら、事業に取り組んでいきたいと担当としては考えるところでございます。

会長： はい、そのほかありますか。

委員： 雇用の創出に関する話ですが、ここ（資料2の5ページ「イメージ資料2」）

に 2021 年末までに企業誘致を掲げており、残りあと 2 年を切っているところですが、具体的に何か話が進んでいたりするのでしょうか。進んでいるのであれば、その内容をお示しいただけますかということ。また、これに関して、地元の企業や事業者が今後しっかりと松田でやるにあたって、行政として何か支援とか、援助を考えていることがあれば教えていただきたいです。事業承継の問題などから廃業する方も多いかと思いますが、その辺りも踏まえて何かありますでしょうか。

企業に対する支援など、総合戦略には書いてなかったものですから、他の自治体の総合戦略を見ても、入れてない行政がほとんどですが、その辺りも踏まえて、いかがでしょうか。

定 住： 企業誘致というお話については、今、町有地の利活用という中で、活用できていない町有地をうまく活用しながら、雇用の創出も含めた中で、企業の方に活用していただこうと、今、これはもう始まっていますが、元県の松田土木事務所だったところを町が所有して、そこを使って創生推進拠点施設という中で、指定管理という話の中で、複数の、コインランドリーですとか、フィットネス、そういった企業体を誘致する中で、そこで法人手数料等を取っていただく中で進めていくというのが一つ。もう一つは、国道 246 号線から寄に入るところの、寄 1 番地という寄の入口の土地については、これまで 2 回、公募という形で、事業者から地域の賑わいですとか、そういったことをコンセプトにしながら、利活用を図っていただきたいということで行ってきたところですが、2 回とも審査場の基準に満たないということで事業者の決定に至らなかったという経緯がございます。ここで 3 回目ということで、手法を変えた中で、改めて誘致をしていくという予定はございます。

また、企業に対してという中では、定住の中からのお話をさせていただくと、雇用奨励金というものがございまして、1 年間の中で、松田町内の方を雇用していただいた場合、お一人当たり 10 万円、雇用していただいた企業に対して、ご用意するというものがございます。

観 光： 今、お話がありました企業支援につきましては、観光経済課の方で担当していますので、私の方からご説明させていただきます。今現在、町の中には中小企業が多いということで、信用保証料の補助とか、経営改善資金利子の補助等、今まで維持している各種支援事業を継続させていただきながら、各事業者の支援を図っていきたいと思います。勤労者の方につきましては、ハローワークさんと提携をしながら、就業を訴える関係については、町のホームページで紹介をさせていただいていますし、少しですが、勤労者の方に住宅資金利子の補助、それから融資制度の方も実施していますが、なかなか融資の利用率は低いなどというところもありますので、色々と改善しながら、広く皆様に使っていただけるよう、広報も進めていきますので、またご提案などがあれば、教えていただければ幸いです。よろしくお願いたします。

会 長： はい、よろしいですかね。今の話は、この総合戦略案の 44 ページ、45 ページ

の雇用を生み出すというところですね。新松田駅周辺の基盤整備だとか、商店の活性化だとか、金融機関や商工会と連携して、支援を進めますというところを重点的にやってほしいという話かと思います。

そのほかございますか。

副町長： 1点補足になりますが、この辺りは時間がかかってしまう、少し大きな話になってしまいますが、まちづくりということで、今、本町はなかなか企業さんを誘致するような用途になってないんですね。どちらかというと住居系の用途になっている。なかなか規制が敷かれています。この辺は5年に1回、都市計画の用途の見直しという、都市計画の手順がありますが、その辺も見直していかないとなかなか雇用の場というものが作れないのかなと考えているところです。ただ、これが1～2年先にできることかといえば、できませんけども、やはり長い、5年、5年のスパンで考えていきますと、松田町の中の人口も少しずつ減っていつている。また、土地が空いてきたといったことを踏まえると、いつまでも住居系でいいのかという、やはり雇用の場を作るという用途も必要ではないかと、今後、具体的な考えも持っていないとにならないかと考えています。

会 長： はい、ありがとうございます。そのほかございますか。

委 員： 46 ページですが、KPI の「松田ブランド認定品の売上額」について、平成 30 年度 141 万円から、令和 6 年度の 1500 万円になる方策がどのようなものなのか、ちょっとこの観光入込客数の人数からは見えないので、教えてもらえますでしょうか。

観 光： それでは、観光経済課の方からご説明させていただきますと、平成 30 年度につきましては、平成 29 年度にブランド認定を始めて 1 件という数字になっておりました。今、ブランド認定しているのが 3 つに増えました。内容については、サクラマスの燻製と丹沢大山茶、おひるねみかんジュースですが、おひるねみかんについては、ジュースにこだわらず、アイス等になっている部分も含めませんが、その 3 つを広く展開していくことによって、令和 6 年度までに町でもまた新たにブランド認定をして、どんどん増やしていきたいということを含めまして 1500 万円としています。やはりこういうことをしていけないと、町としても、やはり先ほどの商業振興も、農業振興も含めまして、これだけの売上につながるようブランド認定をしていきたいと考えています。

委 員： もう一ついいですか。先ほど追加された 45 ページの「有害鳥獣被害面積」ですが、被害面積を減らすというのはもちろん大事だと思いますが、そもそも農業に使っている面積はほとんど変わっていない状況で、そこまで減らすということなのか、そもそも耕作放棄地が増えているので、減っていくのかでは、その在り方が違うと思いますが、私はその状況をよく存じ上げないので、教えていただけますでしょうか。

観 光： 確かに今、松田町の農地面積は全体で約 200ha で、そのうち約 40ha が荒廃地となっています。それ以外の農地を何とかしていこうということで、今、農業委員会と相談して進めさせていただいてますが、基本的には分母は変わらず、あ

くまでも猟友会さんとか、防護柵とかの補助をしながら、今、現状ある被害面積を半分に減らしていきたいと。荒廃地が増えたから、面積が減ったとかいう考えではなく、あくまでもそのような施策とか、有害鳥獣を減らしていきながら、また、有害鳥獣が食べない食物というものが今出ていますので、それらを栽培するなど、何とか、松田の農業を守っていきたいということで、あくまでも現状の面積を半分にしていきたいということです。

会 長： はい、そのほかございますか。

委 員： 子育て支援については、他の市町村もかなり積極的になされている中で、ここが松田町の売りというようなものがどこに出ってくるのか、例えば、それによって惹きつけていくことで、もちろん合計特殊出生率も上げていかないといけないということも分かるんですが、女性の絶対数が減っている中で上げて、上がらないので、ここに住んでもらって、それでできるだけ産んでいただける数を増やしていく。だから、ここに住みたい、ここを選びたいというようなものがないといけないと思うんですが、他の周辺市町村と比べて、どこが売りなのか、子育て世代の若い女性を惹きつけていこうとしているのか、教えていただけますでしょうか。

政 策： 女性の活躍という観点で、平成 28 年度から町の総合計画も含め、計画を進めてきました。総合計画の中で、総合戦略と同じように 2040 年に 1 万人を目指すということで様々な施策を進めていかなければならない中で、特に、その世代をどう迎えるのか、それにはやはり住宅地を誘導するという形で、先ほどの土地利用の推進ということで、そこに町に点在する空地、空家バンクを設置し、そこに民間のノウハウを誘導し、長く住んでもらうという形での住宅整備の誘導、道路整備も含めて、施策の中に取り込んでいくのが一つ。

また、他の事例などもよく見るんですが、長野県の下条村さんで、子どもがどんどん増えてきたということで、2006 年から進めてきた中で、その 10 年間に 4300 人まで、500 人くらいの子どもたちが増え、生産年齢人口も増えてきた。そういった中で、現状、それからの 10 年間の経緯を見ますと、やはりハード整備だけでは人口がどんどん減っている状況にあるというデータもある中で、やはり松田町の一番魅力的なものは駅に近い、自然豊かということも踏まえた取り組みを進め、その中で、移住された方、転入、転出された方からアンケートを取り、そのニーズを把握したり、町の魅力を把握したりして展開していくというところがございますので、特化したところと申しますと、やはり町に今ある既存資源である「駅に近い」「自然環境豊である」ということを活かした施策に今後も取り組んでいかなければならないかなと思います。

その中で、やはり 3 つの視点の“人口 1 万人を目指す”ための施策に打ち込んでいきたいと思っています。

会 長： よろしいでしょうか。

西田委員の質問は、子育て支援、私の目から見ても結構やっているかなという気はするんですが、目玉になるのは何かという質問だったかと思うんですが、

その辺りをPRできたらお願いします。

政 策： 現状、待機児童ゼロを目指した中で進めています。そこには小規模保育の整備や認定子ども園を推進していくということもございます。現状、特化したところは待機児童を出さないために、松田町は施設の活用を含めて進めているところでございます。

会 長： 今後に期待するといったところでしょうか。
そのほかございますか。

委 員： 48 ページの KPI「空家の利活用物件数」ですが、0 から 25 というすごい目標を立てていますが、町から見て、なぜ0 件だったのかというところ、問題点をどのように把握しているのか。地元の不動産業者と連携しながらとあるが、今まで連携していなかったから0なのか、連携していても色々な諸条件の中でダメだったのか、その辺が分からない。0 ということは一切実績がなかったということなので、相当の努力が必要だと思うんですが、その辺のところ、なぜ0 だったのか、それを今度、どのように積み上げていくのかという方策があれば、教えていただきたい。

定 住： 空家の利活用については、これまでも空家バンクという形で、町のホームページで情報発信をしてきたところですが、いくつか物件としていただくものはあるんですが、アパートですと大家さんなり、不動産屋さんなりとの連携が図れますが、戸建ての物件ですと、建物の所有者の意向を確認した中で、不動産物件として結びつけるというのが、なかなか進んでいないところがございます。

そういった中で、来年度に向け、この辺りを少しテコ入れして、専門的な知識を持つものが職員にはいませんので、そういった方の雇用等も含めた中で、不動産業の方との関係をさらに深めていくということで、宅建協会小田原支部というところもございますので、お話を進めていく中でやっていきたいということもございます。25 件という数字がどうかというところはございますが、やはり先ほどもありましたとおり、町有地の利活用の中で、また、今ある建物、空家等をうまく活用し、子育て支援といったところをポイントにし、町の魅力を発信していきながら、住まいの場所としては今ある空家等への移住を進めていくということで、こういった目標を立ててみたものです。

会 長： いかがですか。不動産業者と連携をしながらということですが、その辺りの具体策が書いてないようですし、この辺り具体的にどのように増やすのか、というのは各論で攻めて欲しいと思います。

委 員： 同じようなところで、48 ページの「夢が膨らむ住まいづくり」です。先ほど来の子育て支援ということもありますが、やはり待機児童もそうですが、子どもさんが増えたりすると、町でも安心して遊べる場所とか、そのような施設が欲しいということも私も子どもがいるので思ったりしますが、ここに記載のある公園や遊び場など交流の場づくりを進めますとのことですが、ここはどのような形で、松田町の方では公園の計画があるとか、そういったことはあるん

でしょうか。

観 光： 今ある公園につきましては、必要に応じて整備を行っていきますが、今後、新規に整備していく公園というものは現状、計画にはございません。町では、現在、市街化区域内に約 10 公園、それと山の上にある西平畑公園、もう少し行ったところに最明寺史跡公園という公園がございます。やはりお子さんが行けるとなると、市街化区域内にある公園に限られるとは思いますが。児童公園につきましては、宮下と中丸と 2カ所ございますが、そういったところをお子さん達のニーズを踏まえ、少しずつ改修することは必要だと考えております。

政 策： 補足ですが、やはり地域座談会でも公園がないとか、どこにあるか分からないという声が多く聞かれます。町としては、安心して遊べるところが、これだけあるということをしっかり周知していこうと考えております。

会 長： 今、10 公園ほどあるということでしたが、それを町民の方々があまり知らないということですかね。

委 員： そうですね、座談会や転入者の方々から声を聴くと子どもが遊べる場所が欲しい、どこにあるのという声が非常に多く、平成 26 年頃に実施したアンケートでもそのことを知ったため、しっかり周知いたしますということです。

委 員： 松田町さんですと、やはり自然環境豊かということで、山があったり、川があったりするんで、やはりそういった地の利を生かした公園などがあれば、目玉にもなるのではないかと。

会 長： そうですね、そこも含めて検討いただきたいと思います。
そのほかございますか。

委 員： 51 ページですが、この数値目標については、アンケート調査でということで、67.5%から 75.0%に持っていくんだということです。まちづくりアンケート調査の回収率がどのくらいだったか、また、回答者について、その世帯の家長が答えた場合とそこに同居する若い人が答える場合とでは、住みよい町という感覚も違うのではないかと思います。その辺りの回答者分析などは実施されているかと思いますが、どのような感じなのか教えていただきたい。

事務局： このまちづくりアンケートにつきましては、総合計画の策定、見直しの際に実施しているものです。今回は、今年度からスタートした第 6 次総合計画策定に向け、平成 30 年 3 月から 5 月まで実施したもので、その時は 16 歳以上の方から無作為で 3000 人を抽出し、アンケートを行ったところ。有効回答票が 878 票、回収率が 29.3%でした。

その分析につきましては、年代別のクロス集計などを行い、総合計画の策定に結び付けております。

委 員： その分析をする中で、先ほどの子育てや人口ビジョンについて、高齢の方の意見でなく、若い人の考え方、感性というものをどこかに反映されているのでしょうか。

会 長： 若い人の意見で、反映できるような意見について、どのようなものがあったのか紹介いただけますか。

事務局： 今すぐに具体的な意見を紹介することは難しいですが、ただ、このひとつ前の総合計画を策定する際もそうだったんですが、やはり仰るとおり高齢の方が答えてくれる割合が高かったと思います。その部分をフォローするために、分野別の座談会も開催させていただき、例えば、PTAの方々を集めたりですとか、今回の総合計画でいくと中学生を対象にワークショップを開いた中で、アンケートも取ったりすることで、いただいた意見を担当課と我々の間で連携、調整した中で、じゃあ、今度、こんなことをやっていこうよということを盛り込んで総合計画が出来上がっております。

委員： この「住みよい」と回答された方々はこういったことで住みよいと回答されたんでしょうか。その傾向や、こういった方々がそのように答えているのか、すぐに出るのか分かりませんが、後日でも結構ですので。何をもって住みよいと答えているのか教えてください。

事務局： ご説明させていただきます。やはり住みよい理由としては、豊かな自然環境に恵まれているからという方が全体の70.4%。それと交通が便利だからという方が57.8%になっております。

逆に、住みにくいと答えていられる方々は、スーパーマーケットなどの大型店舗がないということを経験されている方が76.9%となっております。

会長： 私も手元に第6次総合計画を持ってきましたが、事務局から説明のあったとおりですね。

事務局： 年代別に見ても、どの年代も同じような理由を挙げておられます。

政策： 補足です。アンケート調査以外の座談会などでも、自治会から若い方が全然来ないのではないかと色々な指摘をいただきます。そこをいかに集めるのか、興味を持たせるのかということが町の課題ではないかということで、外から移住してくれた方々を対象に、ニーズや、良いところ、悪いところなどを伺い、それを施策に反映させていかなければならないということも行ってありますし、転入、転出者の方々に対するアンケートも実施しております。

そういった中で、町の新たな施策を転入者の方に説明し、そこでアンケートも実施した中では、やはり自然環境が良い、子育て支援が充実している、それはこういったことですかと聞くと、医療費が安いとか挙げられておりますので、そういったことを継続的にやっていくのか、あるいは、新たなニーズを掴んでいくのかということで、これからも取り組んでいきたいと思っております。

委員： 先ほど、中学生のワークショップの話がありましたが、非常に良いことだと感じます。新しい方が来られるということも大切だと思いますが、若い方々が町の方々と触れ合うことにより、大きくなった時に地元で知り合いがいたり、地域の方との触れ合いというところがあると、一度出ていったとしてもまた戻ってくるということも考えられるので、これから子育てをする世代の方が来られた時に、子どもと地域の方々がどの程度繋がりのある町なのかということが気になると思うので、中学生と町の方との触れ合いをどんどん進めていっていただければと思います。

会 長： はい、そのほかございますか。

委 員： 金融機関として、私どもは新松田駅付近に立地しているわけですが、来店されるお客様の利便性という観点で、現状、来店されるお客様が年々減っています。当然、金融機関の中では、ウェブを使うなど、来店いただかなくとも、できてしまう業務も多くなっていますが、私どもも毎年2回ほどお客様アンケートを取る中で、駅前に車で来る方については、駅前の再開発にも関わってしまうかもしれないが、車を置く場所がないとか、駅前のロータリーに大きなバスが通ったりですとか、やはり車で来づらいという意見が多くなっている状況です。

例えば、開成支店ではロータリーも車が通りやすいし、今の車社会の現状を踏まえると、やはり駅前の整備は近々の課題なのかなと思います。何かしら動きはあると思いますが、それがお客様には身近に感じられていないということがあって、この前開催された勉強会への出席者もだいぶ少なかったこともありますし、町だけではできないことと思いますが、もう少し動きをアピールする必要もあるのかなと思います。このままでは、どうしても利便性の高いところに逃げて行ってしまうのかなというところで、人口減少にも繋がってくると考えます。呼び込むにも先ほど話があったとおり、何かしら目玉がないといけなんでしょうし、やはり使い勝手が良くないと我々金融機関としても、お客様の利用が増えないという、一つの理由としてはあるのかなと思います。

簡単にはいかないかもしれませんが、これまでいただいた色々な意見を踏まえ、どれだけ新しい人を呼び込むことができるか、そしていかに満足して生活していただけるのかということについて、これはお金がいかにか回るのかということにもなりますが、もう少し駅前整備のことについて、難しいこととは思いますが、もっと訴えるようなものがあつた方が良いのかなと感じます。

何となく、町民にも見えていない部分や、また、言っても無駄だろうとか、何十年も先になるんだらうとか、あきらめムード的なことをだいぶ聞くもので、今、階段を一つ一つ上がっているんだというようなものが見えるといいなと思います。単に検討するとかでなく、何か具体的なものがあるといいのかなと思います。

会 長： これは、私、総合計画審議会の会長もやっていますが、やはり非常に大きな問題になりまして、一つの重点項目として、やっているはずですが、まちづくり課長はいませんので。

副町長： では私の方から。仰るとおり、駅前整備は今始まったことではありません。時代としては、私たちの先輩からずっと計画をされていたことになります。

私も職員時代に、担当者ということで、南口、北口という分離の中で、駅前整備をさせていただきました。まずは、皆様、ご存じのとおり駅前には車両と歩行者が混在しており、非常に危険だといったところから、安全性を確保するためには、どんな方法が即効性があるのかなというところで、当時は進めておりました。今は、町の顔でもあるし、足柄上地区の玄関口でもあるという位置付けで進めているところであります。今現在の進み具合というのは、少なくとも1年に

一度はということで、昨年も広報紙を通じて、今このように進めていますというのを町民の皆様にお知らせはしましたが、なかなか文字だけでは伝わらないこともありますので、図面（絵）をお示ししながら、今このように進んでいますということで、計画的にお知らせしていきたいと計画しております。その中で、本日、小田急電鉄さんも見えられていますが、具体的には、駅前に関係する公共交通の皆様、また、警察署、県、当然、銀行様はじめ、関係者の皆様からご意見を頂戴しているところでございます。事業を進めていく中で、重要なのは、地元の町民の方々、特に土地を持ってられる権利者の方々のご理解とご協力がないと進めていくことのできない事業ですので、今、その権利者の方々と意見交換をしているところでございます。

この事業はどう進めていくのか、この事業はこういったやり方ですよということについて、一緒に勉強会をやっていこうということで、今年と来年はその時間に充てていきたいという計画で今進めております。ですから、外から見るとなかなか変化が見られないんですが、今、権利者の皆様に事業の大切さとか、その整備の重要性というところを理解していただいている大事なところとなっております。ただ、支店長さん言われるように、今ここまで進みました、これからこういう風に進んでいきますという広報については、節目節目で皆様にお知らせしていく計画としております。

また、もう1点。整備は時間がかかるから、今何かできないかという点については、警察とともに、例えば、交通規制といったところではやってはいるんですが、なかなか有効面積が非常に狭いということがあり、うまく交通整理ができていない状況です。やはり町としては、何が即効性があるのか、例えば、ここにポールを立てて歩行者を守ろうよと言っても、バスが曲がりにくくなってしまったりとか色々な面があり、では別の面で即効性という観点から何ができるのかを警察とは話を詰めています、なかなか決め手となる案が浮かんでいない状況です。

南口についても、今途中のような形になっていますが、この辺りも地権者の方のご理解がないといけないということで、用地交渉を引き続き、進めさせていただいています。当初の町の目標としては、小田原方面に行くバスが駅から出発して踏切を渡ると、付近の交差点が混雑するというので、今もこの計画は生きていますが、小田原方面に行くバスを南口から発着させたいと、そうすれば、北口からのバスの発着便数が少なくなり、少し空間的に余裕ができてくる。また、踏切を渡るときの交通渋滞も少し緩和するというので、先に南口を整備させていただきましょうとスタートしております。

今は止まっている状況ですが、用地交渉につきましては、継続させていただいてるとご承知おき頂ければと思います。いずれにしても、町民の皆様をはじめ、関係者の皆様にも、今の状況や今後のスケジュールにつきましては、節目節目でお知らせさせていただきます。

会 長： 私もこの新松田駅周辺の整備につきましては、最重点の課題と理解していま

すので、よろしく願いいたします。

そのほかございますか。

委員： 本日、PRもいただいた桜まつりやロウバイまつりですが、例えばロウバイまつりなんです、昨年と比べると2倍近く、18000人を超えたなんていう話も聞きましたが、隣の小田原市で1日から始まる梅まつりがありますが、その来場者の方から苦情的なことを結構いただいた中で、特に、下曾我の梅園やここもそうかもしれませんが、JR東日本、東海のICカード（パスモ・スイカ・トイカ）の連携がないということで、観光客の方々がかなり混乱しているということがどこでもあると思いますが、相手も民間ではありますが、その辺りを町として、関係人口を増やすだとか、人の交流だとかいう部分で、もっと利用者の利便性を高められるよう提案や陳情を実施できないのかなど。そこが改善されれば、もっとビジョンの中で、プラス効果が生まれてくるのではないかと考えます。

副町長： 支店長さん仰るとおり、私どももお客様からお話をいただく件でございます。この辺につきましましては、町単独ではなく、静岡県、神奈川県、御殿場線沿線の地域で協議会を構成しており、毎年、陳情、要望を連名で行っております。また、懇談会というような場も設けていただき動いている中で、最重点要望として掲げているところです。小田急電鉄さんもいらっしゃいますが、JR東海さんも事業化という中では、なかなか良いお返事がいただけないといったところがございます。協議会としても、逆にこういったやり方があるのではないかとというような第一歩的な案もお示しさせていただきながら、要望はしている状況です。ただ、なかなか実現に至らないというところが私どもも歯がゆいところではあります。また、行政とは別に、御殿場市さんや小山町さんらとともに議員連盟というの構成し、議員さんからもJR東海さんに対し、利便性の向上等々に対し、働きかけていただいているところです。

会長： はい、そのほかございますでしょうか。

それではだいぶ時間も過ぎてまいりましたので、この辺で終わりにしたいと思いますが、何かございますでしょうか。今日は厳しい意見もございましたが、本当に貴重なご意見をたくさんいただき、ありがとうございます。それでは、今日いただいたご意見を参考にしながら、新たに案を練り直していただき、盛り込めるところは盛り込んでいただくということでお願いします。

それでは、その他ということになりますが、事務局から何かありますか。

(2) 第2期 松田町総合戦略（素案）に係るパブリックコメントの実施結果について
（議事（2）については、議事（1）の説明に合わせ資料2に沿って事務局より説明）

(3) その他

事務局： それでは、私の方から2点ほどお願いします。

今後の予定の再確認になるかと思いますが、先ほどお伝えしましたとおり、

この後、議会に対しても説明させていただき、本日いただいたご意見と議会でもいただいたご意見を踏まえ、最終的な計画にしていきたいと思っております。この最終的な案につきまして、大きな訂正等があれば別ですが、細かな訂正ですとか、方向性の変わらない範囲での修正であった場合、その判断を会長に一任いただけるのであれば、次の審議会は開催せずに、皆様に完成形を配付できればと考えておりますが、皆様、いかがでしょうか。

会 長： いかがでしょうか。今日たくさんのご意見をいただいたので、ぜひ盛り込んでいただきたいとは思いますが、場合によっては、もう1回くらいあるかもしれません、私に任せてもらってよろしいでしょうか。

委 員： (賛成！)

会 長： はい、ありがとうございます。

事務局： それと、もう1点。これはご報告になるかと思いますが、来年度も、地方創生推進交付金を活用した事業としまして、先ほどお話に出ました女性活躍の関係、それから、県西地域活性化プロジェクトの関係です。今、国の方に計画を提出しているところです。

まだこれから議会にも予算案を提出するところですので、詳細はお伝えできませんが、2事業とも5カ年計画で提案していた事業のため、来年度が事業最終年度となります。女性活躍につきましては、旧松田土木事務所をスプラボとして改修、拠点とした中で女性が活躍しやすい、例えば、起業支援などの環境を創出するものです。概ね1000万円規模の事業となります。

もう一つが県西地域活性化プロジェクト推進事業です。これまで取り組んできた国際交流ですとか、観光面での新たな周遊方法の確立ですとかに関する事業となります。こちらは、これまで寄地区で取り組んできたYHV事業や農泊事業について、県西地域の中で、健康づくり、また、未病を改善するといった観点から少し盛り込めないかということで、今、国の方へ少々追加した形で計画を提出しているところです。

こちらにつきましては、3月末に内示が示され、交付決定がその後、4月1日の予定となっております。

これらにつきましては、例年、2月頃に開催しております総合戦略審議会におきまして、ご説明や評価を行っていただければと思います。こちらは、概ね2000万円弱規模の事業となります。

副町長： すみません、もう1点。ここで、地元の神静民報さんが記事にいただきましたが、実は、松田町が立地適正化計画というものを策定しております。まだ確定ではなく、2月に町民の皆様からご意見をいただこうとしておりますが、これはどういうものかといいますと、一時、コンパクトシティという言葉の皆様よくお聞きになったと思いますが、やはり全国的に人口が少なくなっていく中で、土地が利用しづらくなってきた、また、行政側からすれば、色々なところに公共施設や住宅が散らばっていると行政サービスもしづらくなっていくというところを少しずつ改善していく。いっぺんにではなく、少しずつですが、改善を

していければいいのかなという計画でございます。これは何かといいますと、松田でいえば、やはり駅前を中心に市街化区域というのが、今 198 ヘクタールありますが、その中でも、例えば災害が起きやすい区域ですとか色々ございます。土砂災害ですとか、水害ですとか。その時になるべく徐々に駅に近いところに住居などを構えていった方がいいですよとか、そのようなところで一つコンパクトな町をつくっていきましょうというような計画です。

会 長： ありがとうございます。そのほかございますか。

事務局： 事務局からは以上です。

会 長： そうでしたら、最後に閉会ということで、大変恐縮ですが、副会長から挨拶をお願いしたいと思います。

副会長： 本日の審議会は、最終案に至る最終段階のものだったと、案も煮詰まってきた段階で皆様からご意見をいただき、今後、松田町さんの方でそれを反映させる、かなり大変な作業なのかなと思います。

神奈川県でも同じタイミングで、まち・ひと・しごとの戦略を策定しており、冒頭に会長の方からもお話がありましたが、先月の 31 日に推進会議を開催し、その前段階で市町村の皆様にもご意見をいただき、そして、パブリックコメントも実施し、ちょうど同じような状況です。いただいたご意見を取りまとめて、議会の方という形で、ここからが一番大変な作業になろうかと思いますが、ぜひ、本日出た意見などを取り入れていただき、少しでも松田町の活性化に繋がるような戦略にしていっていただければと思います。

そのために、私たち神奈川県としてもぜひお手伝いをさせていただきたいと思っておりますので、お声をおかけください。以上です。

会 長： はい、ありがとうございます。

それでは、これをもちまして、第 2 回の松田町総合戦略審議会を終わらせていただきます。どうも、ありがとうございました。

4. 閉 会
